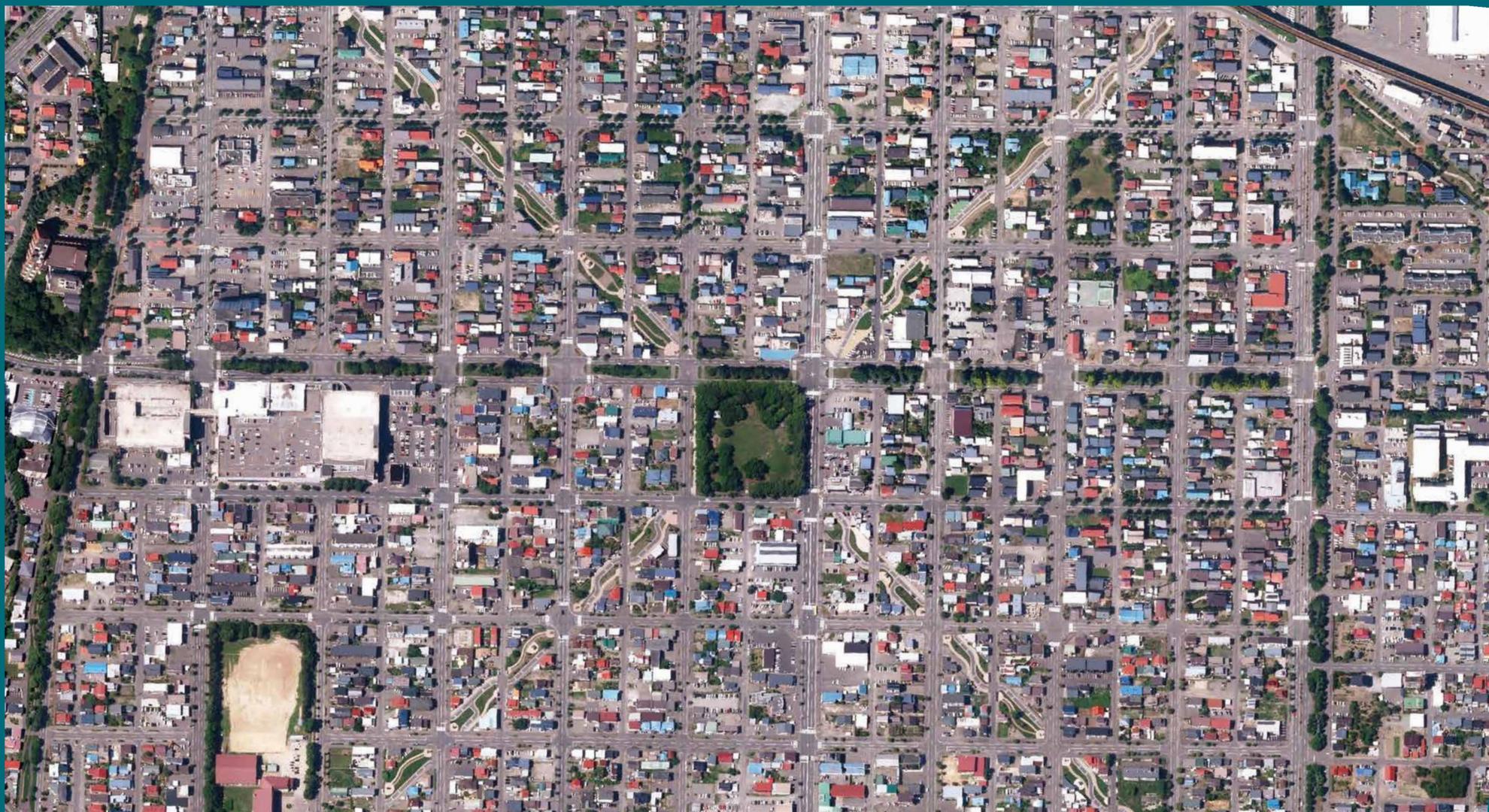


# 斜交街路と大通公園 (帯広市)



帯広市

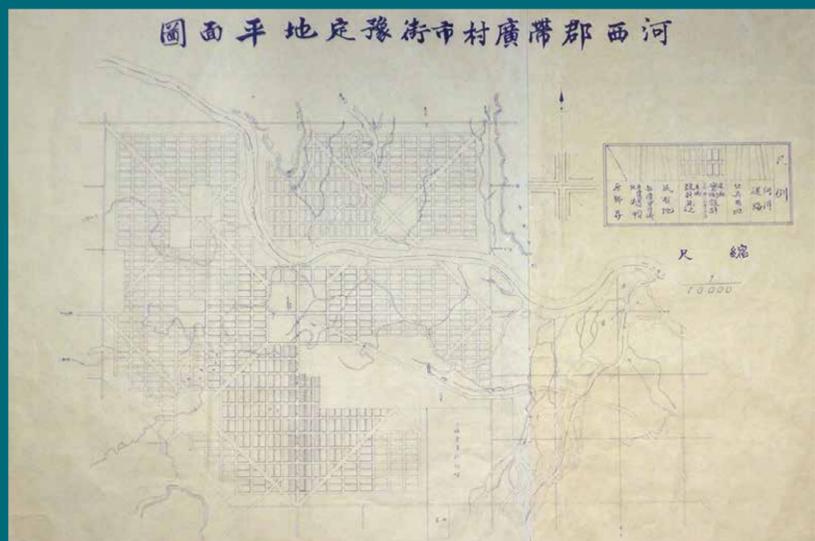


大通公園を中心に、四方に斜交街路が残っていることが分かる  
(帯広圏広域都市計画協議会 2016年撮影より)

## ユニークな北米風都市計画の名残

帯広は、1892(明治25)年の市街区画の測設当初から、碁盤目状の街区に斜交街路が施され、火防線としての役割も担う、北米大陸の殖民都市の構造を持ち込んだユニークな都市計画が実施された。当初の斜交街路の面影を伝える鉄北地区の水光園通・双葉通は、1905(明治38)年の鉄道駅開設などでその存在価値は失われたが、昭和50年代以降は緑道として整備されている。この斜交街路は、1921(大正10)年の鉄南の十勝監獄払い下げ地の市街地区画でも継承され、市街予定地の小公園として道内初となる大通公園を極とする4本の完全な斜交街路が実現し、平成20年代後半になって緑道化されている。

帯広の景観的特徴の一つである豊かな緑に、斜交街路や大通公園が大いに寄与しているとともに、北米の影響を受けた道内唯一のユニークな都市デザインや、都市の歩みを伝える遺産として貴重である。



「河西郡帯広村市街予定地平面图」  
(1896(明治29)年頃、帯広市図書館所蔵)

## 概要

名称	斜交街路(火防線と河南公園)	大通公園
所在地	帯広市	
管理者	帯広市	
規模	3.27km 0.33ha	1.2ha
種別等	市道および都市公園(街区公園)	都市公園(近隣公園)
区画年	駅北地区：1893(明治26)年 鉄南地区：1922(大正11)年	



赤線は現在も道路や公園として残っている斜交街路  
(1931(昭和6)年 町政要覧付図に加筆)